

埋蔵文化財センター、開館25周年を迎える

埋文新聞

25周年記念号

4月1日(火)

2025年(令和7年)

発行所：岡山県岡山市
中区網浜 834-1

岡山市教育委員会文化財課
埋蔵文化財センター



岡山市埋蔵文化財センターの外観(外壁には、レリーフが施される。)

岡山市中区網浜に所在する岡山市埋蔵文化財センターが、4月1日に開館25周年を迎えました。

岡山市埋蔵文化財センターは、2000年4月1日に岡山市の発掘調査の出土物の整理、保存、収蔵、そして展示や公開など、岡山市の埋蔵文化財に関する拠点施設として開館しました。

吉備国の中枢をしめ、古代文化が花開いた岡山市は、古墳をはじめとして、寺院やお城など多様な遺跡が数多くあり、全国的にも貴重な遺跡が豊富な地域とされています。

開館当初から埋蔵文化財の業務に従事する安川所長は、「25年という時間は、あつという間に感じる。ただ、それ以上の長い歴史やストーリーをもった遺物を次世代・未来へと引き継いでいきたい。さらに、来館者のみなさんに遺物を見ることを通してたくさん歴史を楽しんでほしい。」と語りました。



開館時の様子

先人たちが紡いできた岡山市の歴史と現在をつなぐ架け橋として、歴史の息吹を感じる所として、当センターは、これからも埋蔵文化財の保存と活用をはかり、未来へと紡いでいきます。

古墳時代のモデル住宅!?



▶金蔵山古墳(中区沢田) 出土
家形埴輪(写真中央)・柵形埴輪



古墳時代のロマン



▲千足古墳(北区新庄下)
横穴式石室内部レプリカ

『黄泉の国から』

質問!こらぼん!



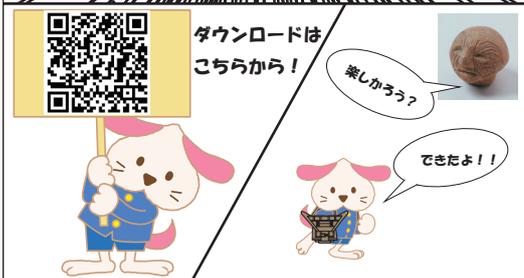
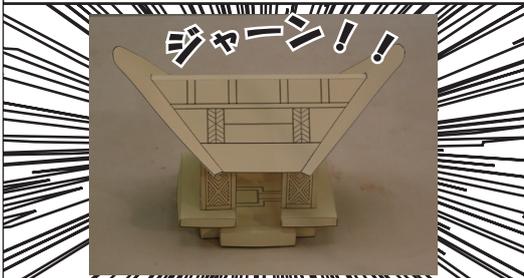
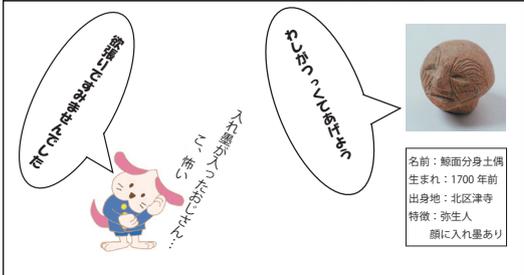
岡山市教育委員会
広報専門官「こらぼん」

当センター所蔵するイチ押し出土品・展示品を紹介いたします。今回、紹介するジャンルは、「古墳時代のロマン」「昔の台所」「縄文人の生活工夫」の3本です。ぜひ、現物を見にセンターへ足をお運びください。

【金蔵山古墳 埴輪】
金蔵山古墳は、中区沢田に所在する前方後円墳です。規模は、約160メートルと古墳ができた頃、中四国で最大規模を誇っていました。この古墳の注目ポイントは、家や柵の形を模した埴輪が多く出土している点です。写真中央の埴輪が家形埴輪で、よく見ると戸

口や門柱を表現しているパーツがあります。ほかに、装飾を施した屋根をもつ家形埴輪もあり、モデル住宅のような雰囲気を感じることが出来ます。さらに、内部まで表現をしているものがあり、水に関する儀式を想起させます。現在、九州国立博物館へ1点が出張中ですが、たくさんモデル住宅を楽しんでいただければと思います。

【千足古墳 石室レプリカ】
千足古墳は、北区新庄下に所在する前方後円墳です。全国で4番目の規模を誇る造山古墳の陪塚(家臣や親族の墓)です。発掘調査から、岡山県内で最古級の横穴式石室をもつ古墳と判明しました。左上の写真は、千足古墳の横穴式石室内部を復元したもので、珍しいドーム状の石室構造をご覧いただけます。さらに、手前側には、直弧文をレリーフのように施した石材(石障)もあります。黄泉の国を感じさせるような展示です。
千足古墳も復元がかわり、当時のロマンを感じることが出来ます。



<開館日時>
月曜日から土曜日まで 午前9時から午後4時30分
(日曜・祝日・年末年始の休日は閉館)

<公共交通の案内>
両備バス・岡電バス「網浜中」下車 徒歩5分
岡山駅・天満屋バスステーションから
・新岡山港行・ふれあいセンター行・桑野営業所行・三幡南行

<問い合わせ>
〒703-8284 岡山市網浜 834-1 岡山市埋蔵文化財センター
Tel:086-270-5066 Fax:086-270-5067

【吉野口遺跡出土 カマド】
吉野口遺跡は、北区吉備津に所在する縄文時代から近世にかけて人々の暮らしを窺うことができる集落遺跡です。出土したカマド・甗(こしき)は、奈良時代から平安時代前半の生活のなかで使われてい

おいしく米を炊きたい

たものです。使用方法は、カマドに胴の長い甗(かめ)をのせて、湯をわかし、その上に底に穴のあいた甗をのせ、甗の中でザルや布に入れた米などの食材を蒸すというものです。現在の食卓でも並ぶ米



【大森遺跡出土 石皿】
大森遺跡は、北区大井に所在する縄文時代晩期の集落遺跡です。出土した石皿は、縄文時代晩期に実際に使われていたものです。上の写真のように木の実を食べるときに取

り分ける皿として、使われたのか、木の実を石や木の棒で擦るための受け皿として使われたのでしょうか?
先人たちの食生活が分かる展示もあります。どのように工夫して調理をしていたか覗いてみましょう。

取り皿か? 擦り皿か?

縄文人の生活工夫



▲彦崎貝塚(南区彦崎) 出土
・ペンケイガイ製貝輪
・クマサルボオ製貝輪
・ハマグリ製貝刃(上から)

【彦崎貝塚出土 貝類】
彦崎貝塚は、南区彦崎に所在する貝塚で、縄文早期から晩期までの長い期間続いた遺跡です。発掘調査で46種の貝類と26種の魚類、19種の動物が見つかっています。左の貝類は、そのなかの3種です。従来、貝は食べた後、捨てますが、彦崎貝塚の場合、貝輪

といった装身具や貝刃といった道具に転用していたことが明らかになっています。また、彦崎貝塚では、装身具の貝輪を作るために使われた石器も見つかっており、装身具を多く生産していたことが見えてきました。SDGsが騒がれる昨今ですが、彦崎貝塚のあった縄文時代から生活に工夫を取り入れて、再利用などの試みがあったという点がみどころです。

アユモドキも文化財

<分類> コイ目ドジョウ科
アユモドキ
絶滅危惧 IA 類
天然記念物

<生息域> 琵琶湖・淀川水系
岡山県の数河川(吉井川など)



▲アユモドキ